平成２９年度　第１回学校評議員会　＜議事録＞　　平成２９年６月１４日（水）

１　開　会

出　席　（学　校）中川校長、瀧澤副校長、木下教頭（全日）、笹原教頭（定時）、管野事務長

（評議員）春田淳一、黒元浩志、太田隆久、岡田理恵、前野史賀　＜敬称略＞

２　内　容

（１）委嘱状伝達及び校長挨拶

（２）自己紹介

（３）平成２９年度北海道滝川高等学校学校経営方針について

・学校経営シラバスについて（全日制・定時制）

（４）学校評議員会開催計画について

（５）学校概要説明

・全日制　学校概要について（木下教頭）

・定時制　学校概要について（笹原教頭）

（６）意見交換

【学校経営方針について】

・太田評議員　：生徒の登校時間が昨年より５分程度早くなったそうであるが、生徒全体で５分は立派であり、規律面でかなり良くなってきていると感じる。今年も生徒の自転車通学について若干問題があるので、町内会として指導に力をいれていきたい。

・春田評議員　：大学（國學院短大）の立場で、18 名もの学生を地元から送り込んでいただき、感謝申し上げる。地元から進学した学生は、卒業後、地元で活躍したいと考えている学生も多くいるので、オープンキャンパス等でも積極的に説明し、期待に応えていきたい。

・黒元評議員　：先日、札幌の某進学校の校長先生と懇談の機会があったが、その中で「成績が良いことだけでは無く、人として挨拶がきちんとできる等の基本的な規律面がとても大切」というお話を伺った。滝川高校を来校するたびに生徒には自分から声をかけるように心掛けているが、学校経営方針には載せていない目に見えない指導の積み重ねが大事であると感じた。

・岡田評議員　：心の悩みや友人関係の悩みによる不登校生徒は年間０人とあるが、現在の人数とその対策についてはどうかということと、学校から地域へのＰＲ方法の２点について伺いたい。

（回　答）：不登校は現在１人いるが、ＰＴＡから予算をいただき、スクールカウンセラーを招いて、年間 40 時間程度の相談体制をとっている。また、生徒の心理状況を把握するためのハイパーＱＵテストの実施や、特別支援学校から教師を招くなど、生徒一人一人に対応した指導ができるよう教育環境を整備している。次に地域へのＰＲについては、学校のＨＰの閲覧者数を増やすよう内容の充実を図ったり、今回のオープンスクールにおいては、新聞に折込チラシを入れるなど、お金のあまりかからない方法で、アイデアを持ち寄って実施しているところである。

・前野評議員　：子供が２年に在学しているが、学校に行く時間が以前より早くなり、朝学習等いろいろな理由があると思うが以前より良くなってきていると感じる。なによりも生徒全体やチームとして取組んでいるのが良い。普通科においてもＳＳＨ数学やＳＳＨ理科といった科目もあるようだが、どのような違いがあるのか。

（回　答）：今までは、知識の量が問われてきたが、これからは、得た知識をどのように活用し、生かしていくかが問われており、その手法としてアクティブラーニングというものがあるが、普通科でもアクティブラーニングをとりいれ、生徒が自身で考え、主体的に学習できるよう取り組んでいる。

【全日制学校概要について】

・岡田評議員　：今年度の取組のなかで、課題解決のための滝川高校プロジェクトチーム会議とは何かということと、積極的なＰＲにより、受検生の増加を図るとあるがその方策の２点について伺いたい。

（回　答）：本校ではプロジェクトチーム会議という取組が以前からあり、解決が困難な課題等を分掌の枠組みを越えて話し合う場であるが、最近の例では、卒業式の生徒の服装の問題があり、保護者の金銭的負担軽減を図るため、衣装に高額な費用をかけることの自粛について話し合った。

２点目のＰＲ方法については、単に学校行事を記事に載せてもらうばかりではなく、プレス空知の記者を学校に招いて、学校行事等の取材をしてもらうなど、より多くの情報を発信したり、塾

主催の説明会にも滝高進学を考えている学生が多いことを考慮し、学校アピールの場としてとらえ、積極的に参加し活用を図っていきたいと考えている。

【定時制学校概要について】

・岡田評議員　：休職者が１名いるとあるが、その穴埋めについてと、進路変更生徒１名の状況について２点うかがいたい。

（ 回　答 ）：まず、進路変更生徒については、４月当初から通信制に移りたいという話があり、理由はバイトや友人関係の都合で有朋高校に行くことになった。また、休職者の穴埋めについては、代替教員の配置が難しく、全日の教員の兼務により急場をしのいでいる状況である。

（７）閉　会　校長挨拶

＜記録者＞　事務長　管野